



森 綾, *Seesaw*, 2020, 陶, H57 × W52 × D60 cm

森 綾

襞の鼓動

2021年1月19日(火) - 2月27日(土)

現代美術 艸居

605-0089 京都市東山区元町381-2

開廊時間: 10:00AM-6:00PM 定休日: 日・月



プレスリリース

現代美術 艸居では2021年1月19日(火)から2月27日(土)まで、森綾の初個展「襲の鼓動」を開催致します。2017年の「陶の表現」、「川浦紗季 森綾 二人展」に引き続き、今展では、新作約13点を展示いたします。

森の作品は、ひも作りにて形成された躯体とひだによって成り立っています。形を立ち上げていく過程で土が見せる様々な表情;土の湿った表面や、空気を内包した膨らみ、意図せず立ち現れる曖昧なラインや重力によって生じるゆがみなどから、自然物の生命力を感じ取る森は、自身の作品のテーマを「生(せい)のエネルギー」であると語ります。気鋭陶芸家として国内外において活躍の場を広げ高い評価を獲得しながらも、自らの技術やスタイルにとどまることなく、常に新たな領域へと挑戦し表現の幅を広げています。近年では大作がミネアポリス美術館に収蔵されるなど、更なる国際的な評価を高めています。

本展では、心を無にし、土塊の息づかいにそっと耳を傾けた作品を発表いたします。森の深層から生み出されるひだは、重なり、うねり、上昇していきながら、生命の芽生を形造ります。人体に血液が循環し、植物が水分や養分を全体に巡らせるように、森の作品に貼られたひだは生命のエネルギーが流れ循環していく様子を表現するかのよう有機的な息遣いを感じさせます。深海を連想させる海鼠釉で知られる森ですが、今展では銀や複数の釉薬を掛け合わせ、雨に打たれひっそり佇む植物の生命力を表現しました。

現代陶芸家、中島晴美氏の「素材を一つに限定し、その関わりの中から導き出される造形を追求する」という陶芸論を受け継ぎ、ありのままの自分で純粋に土と向き合い、独自の造形を生み出してきた森。今回の個展の制作期間中には出産や感染症の流行など、作家を取り巻く環境に著しい変化が生まれました。そんな中での制作の日々について森はこのように語ります。

「恩師である中島晴美先生の『わがままに作りなさい』、『つくることは生きること』という教えが制作への励みとなっていた。どんな時も制作活動は変わらず日常にあり、それは私にとって生へのエネルギーである。」

しっかりと息づきうごめく、森作品の生命の鼓動を是非感じ取っていただけますと幸いです。

作家紹介:

森 綾(もり あや)

1989年愛知県生まれ。現在、愛知県で制作。

2014年愛知教育大学大学院教育学研究科芸術教育専攻修了。現在名古屋造形大学非常勤講師。

ギャラリーヴォイス(岐阜)、新北市鶯歌陶瓷博物館(新北・台湾)、Duane Reed Gallery(セントルイス・ミズーリ州・アメリカ)、ミネアポリス美術館(ミネアポリス・ミネソタ州・アメリカ)、Kalamazoo Institute of Arts(カラマズー・ミシガン州・アメリカ)などのグループ展に出展。



主な受賞歴には 2014 年第 10 回国際陶磁器展美濃 審査員特別賞(ニコル・クーリッジ・ルマニエール)、2017 年萩大賞展入選、第 11 回国際陶磁器展美濃入選。パブリックコレクションにはミネアポリス美術館(ミネアポリス・ミネソタ州・アメリカ)がある。

展示作品紹介(一部):



森 綾, *Seesaw*, 2020, 陶

H57 × W52 × D60 cm

無機質な陶の塊からでも息づかいを感じられるような、生命力を放つ作品を目指した。造形の軽やかさと力強さを強調するため、ひだの効果的な配置を模索した。



森 綾, *樹雨*, 2020, 陶

H63 × W72 × D75 cm

下から上へとひもづくりで形を立ち上げていく行為が植物の成長と重なり、日々育てていくような感覚で少しずつ時間をかけて完成させた。雨に濡れてひっそりとたたずんでいる植物のようにイメージし、複数の釉薬を使用している。



森 綾, 戯, 2020, 陶

H31 × W21 × D22 cm

素材の制約にとらわれず、自分主導で形をコントロールすることで、今の自分の感覚を知ることができるような気がする。純粹に、思うままに、形を作ることを楽しむ時間も私にとって必要である。



森 綾, *Circulation.* 2020, 陶

H27 × W21 × D27.5 cm

手びねりで躯体を成形し、その流れに沿ってひだを貼り合わせている。それらが一体化し、波打ちながら循環している様子を表現している。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。
掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けますと幸いです。

プレス担当: 元林久美子

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和東大路東入ル元町 381-2

motobayashi@gallery-sokyo.jp

Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457